

東北送配電サービス株式会社 — ライフラインを守る使命 —



電力供給を現場で守る仙台営業所の皆さん

私たちが日々当たり前のよう
に使っている「電力」。照明や
パソコン、冷蔵庫、エレベータ
ー、スマートフォン、医療機器
……。日常生活から仕事に至る
まで、私たちの暮らしに電力は
欠かせないものである。その電
力の供給を止めないために、今
日も現場で働いている人たちが
いる。

東北全県と新潟県の各地に拠
点を構える東北送配電サービ
ス(株)は、東北電力ネットワ
ーク(株)から委託を受け、配
電部門では電線や電柱の点検や
保守、調査設計などを担ってい
る。寒さと雪が厳しい東北の冬
に対応するために、約700名
がモンベルのアウトター上下(下
ロワットパーカ、パウダーホップ
パンツ)を着用している。製品
が使われる現場を訪ね、仙台市
近郊で巡視作業などを見せてい



測定棒を伸ばし電線地上高(地面から
の高さ)が十分か点検

ただいた。

うっすらと雪が積もる田園風
景の電柱の下で迎えてくれたの
は、菊地拓也さんと齋藤大地さ
ん。いずれも現場の第一線で活
躍するベテランだ。作業は双眼
鏡を手に、電柱を一本ずつ巡視
していくところから始まる。電
力業界における設備点検は、技
術的要件を満たす「健全な設備
であること」を確認するもので、
法律に基づいたものとなっている。
点検項目は、電柱の傾きや
電線のたるみ、設備の劣化や損
傷、設備と樹木や他物の接近な
ど多岐にわたるといふ。

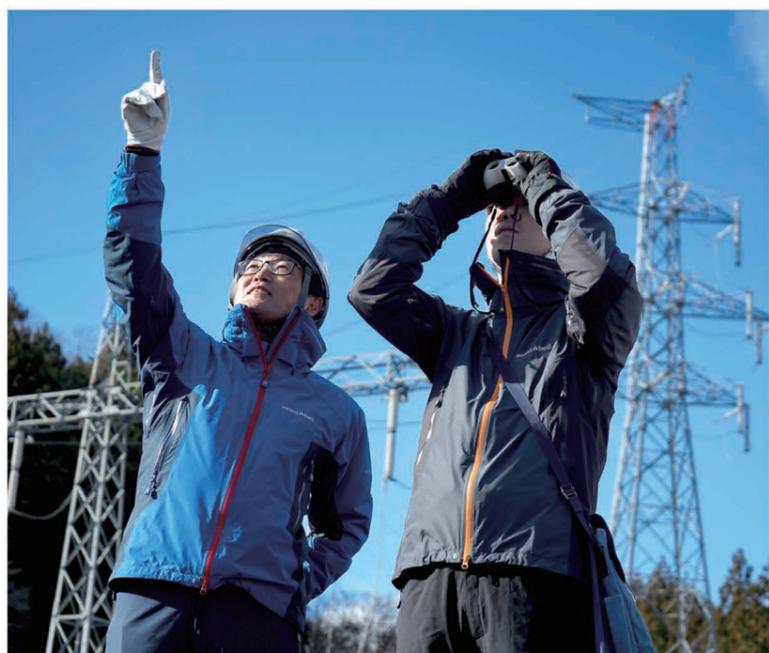
「異変を見つけたら、すぐに情
報を共有して解消につなげます。
いち早く発見して停電を未然に
防げたときは、心の中でガッツ
ポーズですね」と菊地さん。管
轄エリアの電柱は全数を定期的
に点検する必要があり、平均す
ると1日に50〜60本を巡視する

という。

「経験を積むと、パッと見たと
きの違和感で異変に気づけるよ
うになってくるんです。目が養
われるというか、現場勘のよう
なものです。休みの日でも、
旅行先などでつい電柱を見てし
まい、家族に笑われます。職業
病ですね(笑)」。

続いて、電柱に昇る作業を見
せてもらった。フルハーネスを
装着した齋藤さんが、手足を高
く上げて電柱を確実に昇ってゆ
く。落下防止の安全帯のロープ
を巧みに掛け替えながらの昇降
は、クライミングにも似たとこ
ろがある。下で待機する菊地さ
んと声を掛け合い、安全を確認
しながらの作業だ。

「今着ているモンベルのウェア
は軽くて動きやすく、フルハー
ネスにも干渉しないので、安全
帯ロープの掛け替えがスムーズ
にできます。作業効率や安全性



上：電柱を1本1本巡視する菊地さん(左)と齋藤さん(右)
左：電柱に昇っての作業

につながっていると感じますね。
また山中の電柱を巡視する際は
雪の中を歩くことも多く、冬山
登山用のウェアがそのまま役に
立っています」。

1本1本の電柱をよく見ると、
番号が記されたプレートが付け
られている。

「位置を識別するためのもので
す。若い頃に自分が設計に関わ
ったエリアの電柱には愛着があ
りますね。よしよし、今も異常
なく立っているな、という想い
で見えています」と菊地さん。

同社では巡視と並行して、配
電線路の設計業務にも携わる。
地権者や施工業者との調整を重
ね、無事に完成して電気が行き
届いた時には、感慨もひとしお
だという。町の風景にとけ込む



安全に作業する訓練も日々積み重ねる

電柱の1本1本に、そうした仕
事への想いが込められている。

現場での経験が 使命感につながる

午後は事業所に移動し、仙台
営業所を統括する高須賀所長か
らお話を伺った。同営業所では、
豪雪や地震で大規模停電が発生
した際、東北各地や新潟へ復旧
支援に出動することもある。

「令和4年12月の新潟雪害では、
除雪が追いつかない地域にも歩
いて入り、現場を調査しました。
復旧には早さが求められますの
で、寒い現場でもこのウェアを
着て、無理なく動き続けられま
した。」

また社内ではジャケットの色
を、現場責任者はブルー、一般
職はグレーというふうに分けて
いますので、初対面の社員同士
が集まる現場でも役割分担の明
確化がスムーズにできました」。

2011年の東日本大震災で
は、東北地方で最大400万を
超える世帯が停電した。当時、
気仙沼営業所に勤めていた齋藤
さんも電力の復旧にあたった。
「停電していたお宅を一軒一軒
回って送電を再開していくと、



社名をプリントし、ユニフォームとしての
一体感も重視

おにぎりを用意してくださった
り、感謝の言葉をたくさんいた
だき、涙を流して喜ばれる方も
おられました。自分は当時20代
前半だったので、皆さんの
暮らしにとって大事な仕事を担
っていることを実感し、胸が熱
くなりました。停電世帯が日に
日に減ってゆき、復旧に現場で
関わっていることにもやりがい
を感じました」。

高須賀所長はこう話す。「皆
ライフラインの一翼を担ってい
るという誇りを持って仕事をし
ています。現場でのさまざまな
経験が、やがて使命感につなが
ってくるのだと思います」。
電力があることのありがたみ
を日常で噛みしめることは少な
い。だが、現場で働く人たちの
使命感によって、今日も「当た
り前」の暮らしは守られている。

※法人販売についてのお問い合わせ先:salesty@montbell.com(モンベル営業部)